



# 個体識別のため、 すべての牛に 耳標を装着

これが僕達の  
名刺なんだね！



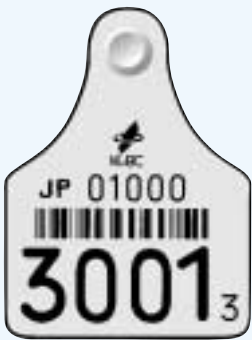
九十二年ぶりの口蹄疫の発生に加え、昨年九月には日本で初めて、BSE(牛海綿状脳症)が確認され、畜産物の安全性に関する消費者の関心が高まっています。そこで、牛の生産情報が追跡できるような仕組みを作り、問題が発生したときに的確に対応できるように個体識別のシステムが緊急に導入され、大崎町でも三月に約九千五百頭の牛に耳標を装着しました。

また、出生までさかのぼって生産情報を提供する基盤が整備されるため、消費者に安心して牛肉を食べてもらうことができます。さらに、経営内で個体の取り違えがなくなり、血統や枝肉情報など、いろいろな情報を個体識別番号を鍵にして取り出し、連結して分析することができます。牛を飼育している農家は、農協などの協力を得ながら牛を出荷した時や導入した時に、全国データベースに報告することになります。全国データベースには、一頭ごとに性別、生年月日、出生地、所在地などの基礎情報(戸籍や住民票のような情報)を蓄積し、関係者はこれらの情報を共通して使います。

## 装着する耳標

### 両耳に装着!!

もし、片方の耳標が取れてもスペアが付いているので安心!



## 『更年期』は 次の人生への 飛躍点

保健婦だより



女性は、五十歳前後に閉経を迎えます。女性ホルモンが急激に減少し、それに伴って心と体いろいろな変化が現れます。個人差が大きいのですが、『ほてり』、『冷え』を代表に、実に二百以上の不快な症状に悩まされたり、気持ちが悪く不安定になったりします。特に日常生活に支障が出る場合を『更年期障害』といい、婦人科の治療が必要になります。しかし、閉経前後の

十年間ぐらいで体が自然になじみ、いつの間にか元気な体に戻ります。

一方、男性の男性ホルモンの減少のしかたは、実にゆっくりで、女性ほど劇的な形での更年期は見られません。そのため、女性のつらさを理解しにくく、つい無神経な言葉や態度で傷つけてしまったり、いろいろな誤解が生れてしまいます。

ところで、夫婦の会話をしていきますか？日本人には独特のほにかみや照れがあつて、多くを語らないことが美德とされていたりします。特に男性にはその傾向が強くて、女性の方から話しかけても逃げ出す人が多いようです。(笑)夫と心が通わない寂しさで更年期のつらさが悪化していることもあるのです。

趣味を持つ、自然にふれる機会をつくるなど、夫婦のコミュニケーションの手段はいろいろあります。それぞれに合った方法を見つけましょう。

ところで更年期を迎えたことで、「女じゃなくなった」と感じる人がいるようですが、これはほんでもないことです。女性の気持は、好奇心や豊かな表情、立ち居振舞いの美しさなど、人の『心意気』のようなところから生れます。誰でもちよつと意識することで、年齢に応じた美しさを持ちつづけることができます。



子ども達が独立し、夫婦だけの生活に少し戸惑いがちなご夫婦へ。一緒に散歩する、同じ